



MAKIBI マルチソロテーブル No.81064130

この度は、本商品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。ご使用前に、この説明書をよく読んで正しく組み立ててください。また、事故やけが、器具の破損などを防ぎ、安全に正しくご使用いただくために、注意事項は必ずお守りください。この取扱説明書は、大切に保管してください。

組立て・取扱説明書

■ ご使用前に

- ① パーツ類の破損、溶接外れなどが無い確認する。(破損が見つかった場合は使用しないでください)
- ② 革手袋などを着用する。
- ③ 消火用の水をバケツなどに入れておく。

部品構成表

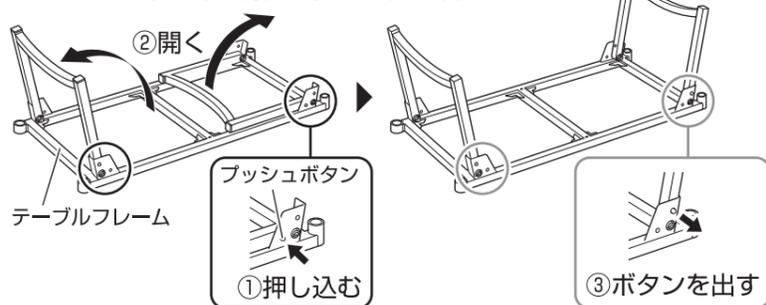
テーブルフレーム ×1	テーブル天板×1	火床×1	灰受け皿×1	ワイヤーロストル ×1
たき火ゴトクA ×1	たき火ゴトクB ×1	吊り調理ポール ×1	調理用フック×1	
ランタンポール ×2	プラストッパー ×2セット	ランタン用フック ×1	小型ラック×1	

組み立て方法

組み立て方法と注意をよく読み、番号順に正しく組み立ててください。撤収は必ず逆順で行ってください。パーツの形状やパーツの収納位置など、実際とは若干異なる場合があります。使用する前にはしっかりと組み立てられているか必ず確認してください。

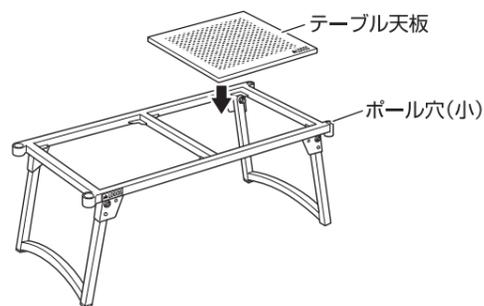
1 テーブルフレームの脚を開いて立てる

- プッシュボタンを押し込みながら、脚を起す。
- ※ プッシュボタンが完全に押し込まれていない状態で無理に脚を開くと、周辺の部品が変形し、開かなくなる場合があります。
- ※ 組み立て・撤収時、プッシュボタンが穴から出てこないことがあります。その際は、脚を何度か動かして確実に出してください。



2 テーブル天板をテーブルフレームに載せる

- ポール穴が小さい側の枠にセットする。



使用上の注意 ● 事故やけが、器具の損傷を防ぐため、次の事項を必ず守ってください。

火災のおそれあり

- 屋内やテント内、タープの下では使用しない。
- 強風時は、たき火をしない。

破損、やけど、けがのおそれあり

- たき火ゴトクに、合計10kg以上の物を載せない。

やけど、けがのおそれあり

- 起伏や傾斜がない地面に設置し、必ず安定した状態で使用する。
- お子様やペットを本体の周りで遊ばせない。
- お子様には、本体の組み立てや撤収をさせない。
- 組み立て・撤収、着火・消火、調理、お手入れなどの際は、革手袋などを着用し、やけどや鋭利な部分でのけがなどに注意する。
- 鋭利な部分があるため、洗浄時はゴム手袋などを着用する。



警告



注意

転倒、破損、やけど、けがのおそれあり

- たき火の着火後、および加熱した調理器具をテーブル天板に置いているときは、テーブルを素手で触らない。
- 物を置いたり、吊した状態で移動させない。
- テーブルに乗ったり座ったりしない。
- テーブルに、10kg以上の物や極端に大きい物、危険な物を置かない。
- 片寄った荷重をかけない。特にテーブルの四隅に手をつくなどして荷重をかけない。(テーブルがひっくり返るおそれ)
- 使用中は、ポールや小型ラックの傾きや安定度、固定度を定期的に確認する。

けがのおそれあり

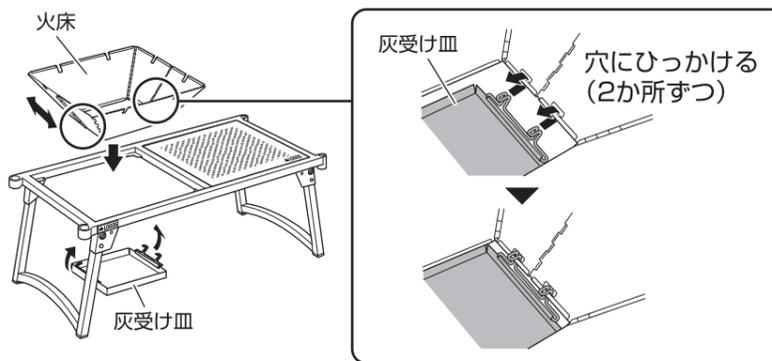
- ポールやフックの先端で目を突いたりしないよう十分注意する。
- テーブルの脚に足をひっかけないように十分注意する。

破損のおそれあり

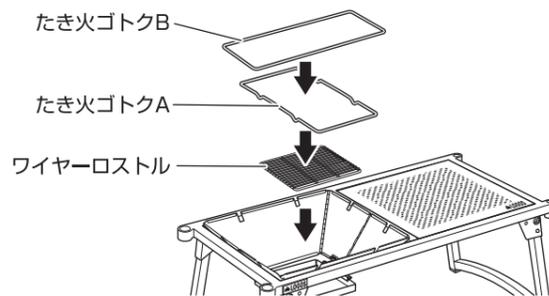
- 雨天時は使用しない。
- 液体などをこぼしてしまったときは直ちに拭き取る。
- 屋外に長期間放置しない。(劣化のおそれ)
- 十分に乾燥させてから、湿度の低い冷暗所で保管する。

3 たき火台をテーブルフレームにセットする

- ① 火床を開いてセットし、灰受け皿をひっかける

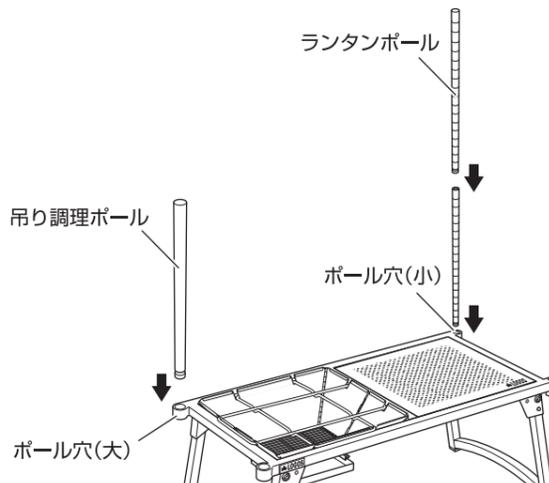


- ② ワイヤーロストルとたき火ゴトクをセットする



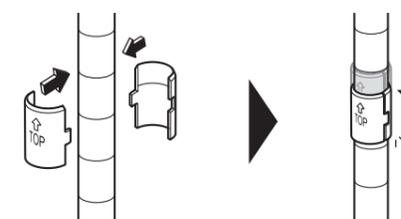
4 ポールを取り付ける

- 吊り調理ポールはポール穴(大)に、ランタンポールはポール穴(小)にそれぞれ取り付ける。

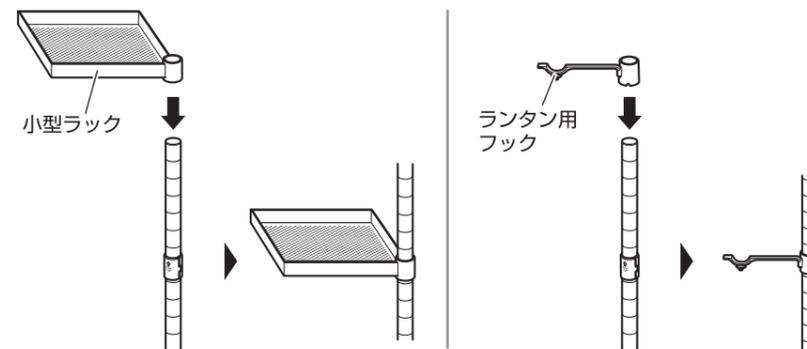


5 ランタンポールに、小型ラックとランタン用フックを取り付ける

- ① プラストッパーを取り付ける
・ポールを挟むようにプラストッパーを組み合わせます。
・プラストッパーを下にスライドさせ、位置を固定します。



- ② 小型ラック、ランタン用フックを上から通す
・プラストッパーに確実に固定します。



完成図



※調理用フックは、調理時のみ使用します。詳しくは裏面をご覧ください。

続きは裏面を見てください。

MAKIBI料理を楽しむ!

火災のおそれあり



- ジェル状の着火剤を使用する場合は、ジェルが灰受け皿に落ちないようにする。
(灰受け皿に落ちると、地面にこぼれ落ちるおそれ)
- 着火剤や燃料の代わりにガソリン、灯油、ガス、アルコールなどを使用しない。
- 灰受け皿から炭などがこぼれ落ちることがあるため、焦げてもよい地面に設置する。
- 残り火の始末や灰の処理、撤収は、完全に燃え尽きて、本体が冷えたことを確認してから行う。
- 燃料を入れすぎない。
(炎が高く上がった、本体の変形・変色のおそれ)
- 火床は、必ずテーブルフレームにセットして使用する。
※火床単体では使用できません。

やけど、けがのおそれあり

- 着火後は、テーブルを移動させない。また、素手では絶対に触らない。
- 着火後は、顔などを近づけない。また、燃えやすい物の周りで使用しない。
(炭がはぜたり火の粉などが飛ぶおそれ)
- 着火後は、テーブルの下に足を差し入れない。
(炭などがこぼれ落ちて燃え移るおそれ)
- たき火をするときは、お子様から目を離さない。
- 本体に水をかけて消火しない。
(急激な温度変化による破損のおそれ、また高温の水蒸気が発生し、やけどのおそれ)

けが、破損のおそれあり

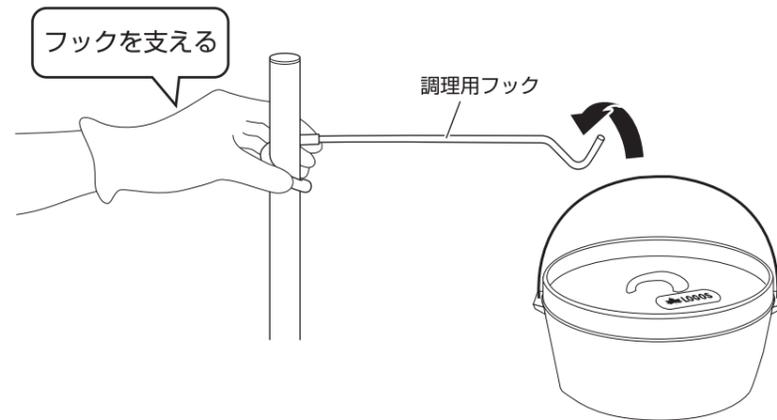
- たき火の使用中は、テーブル天板に耐熱性の低い物や燃えやすい物を置かない。

調理用フックの使用方法



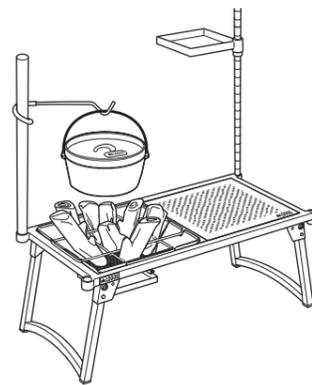
- 調理中、調理用フックなどに触れるときは必ず革手袋を着用する。(やけどのおそれ)
- 調理用フックに、5kg以上の物を吊さない。
※重みでフックが湾曲するような状態では、絶対に使用しないでください。
- 調理用フックに物を吊り下げているときは、下方から力を加えない。(フックの固定がゆるみ、落下するおそれ)

- ①調理用フックを、吊り調理ポールの上から通す
- ②調理用フックを支えながら、調理器具を吊り下げる



Point

- 調理用フックを使用する場合は、必ず調理器具を吊り下げてください。また、調理用フックが確実に固定され、安定したことを確認してください。
※調理用フックは、テコの原理で吊り調理ポールに固定されます。物を吊り下げている状態では固定されず落下します。
- 調理器具を下ろすときも、調理用フックも支えながら行ってください。その後、調理用フックも吊り調理ポールから取り外してください。



Point

- たき火ゴトクに薪を立てかけることで、より効率よく薪を燃やすことができます。
- たき火ゴトクがない状態でも、たき火や吊り調理は可能です。

薪の着火方法

- ①焚き付けを置く
 - ・ワイヤーロストルの中心に、枯葉や小枝などの燃えやすい物を置く。
- ②薪をたき火ゴトクに立てかける
 - ・空気の通り道を作りながら、円錐形に組む。
- ③着火する
 - ・柄の長いライターなどで着火剤に着火する。
 - ・着火後しばらくは、なるべく薪を動かさずに様子を見る。



- たき火ゴトクの上に薪を載せない。
- たき火ゴトクに、合計10kg以上の物を載せない。

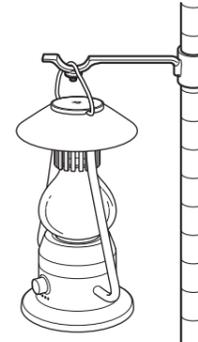
ランタンポールの使いかた



- 強風時は、ランタンを吊さない。(落下によるけがのおそれ)
- 一度に2個以上のランタンを吊さない。
- 小型ラックやランタン用フックに、合計2kg以上の物を載せたり、体重をかけたりしない。

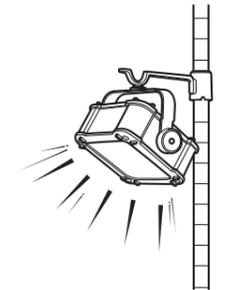
ランタンを吊り下げる

ランタン用フックの湾曲部に、ランタンの取っ手をひっかけることができます。



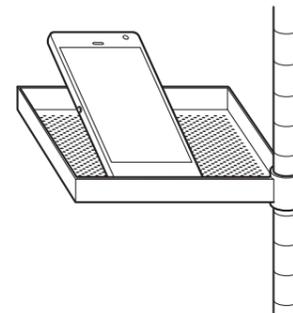
Point

- LOGOSパワーストックランタン(別売)は、ねじで固定できます。
- パワーストックランタンのフックに付いている黒バックンをねじに取り付けてから、ランタンを固定してください。



小型ラックに小物を置く

スマートフォンやカップなどを置くことができます。
※ランタンおよび小物の落下による破損は保証いたしかねます。ご了承の上ご使用ください。



- 廃棄は、お住まいの地域のごみ分別方法にしたがってください。
- 製品の仕様は予告なく変更する場合があります。
- 本製品のパーツは、熱により変形や変色、表面の剥がれなどが発生します。ご了承ください。